

今年度の国保料が決定

国民健康保険（国保）は、加入者全員で保険料を出し合い、病気やけが、出産などに必要な医療費などの給付を行う制度です。

問い合わせ 国保課（市庁舎1階、☎65・4140）

国民健康保険料率が決定

今年度の国民健康保険料率と上限額が決定しました。（表1）

保険料は、①医療保険分、②後期高齢者支援金分、③介護保険分（40歳以上65歳未満の人のみ）を合計したものです。

①～③それぞれが、①加入者全員の前年所得[※]で算定する「所得割」、②加入者一人ずつに掛かる「均等割」、③世帯単位で掛かる「平等割」で構成されています。

表1 今年度の国民健康保険料率と上限額

	昨年度(令和4)	今年度(令和5)	
<1> 医療保険分	①所得割	7.41%	7.69%
	②均等割	2万6010円	2万6920円
	③平等割	2万5800円	2万6640円
	上限額	65万円	65万円
<2> 後期高齢者支援金分	①所得割	2.56%	2.60%
	②均等割	8690円	9110円
	③平等割	8620円	9020円
	上限額	20万円	22万円
<3> 介護保険分 (40歳以上65歳未満の人のみ)	①所得割	1.74%	1.85%
	②均等割	9600円	9830円
	③平等割	6910円	7050円
	上限額	17万円	17万円

表2 低所得世帯の軽減割合

軽減割合	国保加入者数 (旧国保被保険者含む)	国保加入者と世帯主の前年所得 (旧国保被保険者含む)
7割	何人でも	43万円以下
	1人	72万円以下
5割	2人	101万円以下
	一人増えるごとに29万円を加算した金額以下	
2割	1人	96万5000円以下
	2人	150万円以下
	1人増えるごとに53万5000円を加算した金額以下	

・表2は給与所得者[※]の人数が1人の場合の基準です。世帯内の給与所得者等の人数で基準となる前年所得額は変わります。
 ※2 給与所得者等：給与等の収入が55万円を超える人や、公的年金の収入が65歳未満は60万円、65歳以上は125万円を超える人。
 ・4月2日以降に加入した場合は、世帯主が加入した日の加入者数になります。

保険料の軽減・減免

低所得者の軽減

4月1日の世帯内の加入者数と前年所得により、保険料の均等割と平等割が軽減されます。（表2）加入者数には、国保（国保組合を除く）から後期高齢者医療制度に移行した「旧国保被保険者」を含みます。

未就学児に対する軽減

未就学児に対しては、保険料の医療保険分、後期高齢者支援金分の均等割が5割軽減されます。低所得者の軽減が適用になっている場合は、減額後の均等割が5割軽減されます。軽減後の保険料が賦課限度額を超える場合、賦課限度額が保険料となります。

保険料の減免など

災害や失業、その他の事由で保険料の納付が著しく困難になった場合には、一定の基準に該当すると保険料の減免などを受けられる場合がありますので、早めにご相談ください。

※1 前年所得とは

前年の収入から必要経費（所得税法で定められている公的年金等控除額や給与所得控除額など）を差し引いた額で、社会保険料控除、医療費控除、配偶者控除などを差し引く前の額です。遺族年金や障害年金などの非課税の収入は含みません。

所得申告書の提出をお忘れなく！

国民健康保険料は、前年の所得に基づいて計算します。前年の所得情報がない人は、軽減割合の判定ができないため、保険料の軽減が適用されません。

国保課から所得申告書の様式が届いた人は、忘れずにご提出ください。



特定健診を受診して生活習慣を見直そう

無料

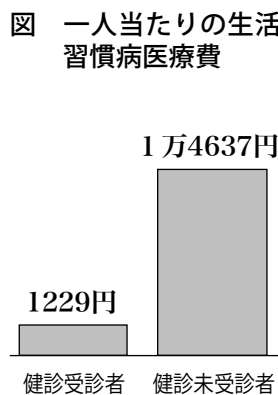
40歳以上の国保加入者が対象です。糖尿病などの生活習慣病の予防と早期発見のため、特定健診を受診しましょう。

問い合わせ 国保課（市庁舎1階、☎65・4138）

特定健診とは？

特定健診とは、日本人の死因の約半数を占める生活習慣病の予防を目的とした健診です。

生活習慣病は自覚症状がないことが多いため、定期的に健診を受けることが大切です。毎年受診し、数値がどの程度変化しているか、結果を比較することで、病気の予防や早期発見、治療につなげましょう。また、健診受診者の生活習慣病医療費は、健診未受診者に比べて安い傾向にあります。（図）



特定健診の受け方は？

受診には予約が必要です。帯広市の国保に加入している40歳以上の人へ、4月下旬に受診券

特定健診の検査項目

- 問診 → 現在の健康状態、服薬、既往歴、生活習慣の確認
- 身体計測 → 身長、体重、腹囲、BMI（肥満の目安）
- 血圧測定 → 最高血圧、最低血圧
- 尿検査 → 尿糖、尿たんぱく
- 血液検査 → 血中脂質（中性脂肪、HDL・LDLコレステロール）
血糖（ヘモグロビンA1c、空腹時血糖）
肝機能（ALT、AST、γ-GT）
じん機能（尿酸、血清クレアチニン）
貧血（医師が検査を必要と認めた場合）
- 医師の診察 → 触診・聴診などを行い異常がないか診察

帯広市では、人工透析に至る恐れもある、慢性腎臓病を予防するため「じん機能」の検査を独自に追加しています。

また、血圧などの数値により医師が必要と判断した場合、心電図検査、眼底検査を追加で行うこともあります。

健診は無料、がん検診も同時受診できます

特定健診は約8000円かかる検査を無料で受けることができます。また、帯広市が実施する「各種がん検診」や「肝炎ウイルス検診」を希望する人は、事前予約をすると同時に受けられます。会場によって受けられる検診の内容が異なります。詳しくは受診券に同封のお知らせをご覧ください。

受診した後は

特定健診の結果から、生活習慣を改善する必要があると判定された人には、特定保健指導（無料）のお知らせを送付します。

健診結果や特定保健指導については、健康推進課（東8南13、保健福祉センター内、☎25・9721）へ問い合わせください。

帯広市広報マスコットキャラクターしらかんぱが特定健診を受けている様子を動画で紹介しています。特定健診の流れもわかりますので、ぜひご覧ください。



YouTube

